

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00873

研究課題名（和文）中国語教育のためのレアリア・文化語彙理解の基礎的研究

研究課題名（英文）The Fundamental Study of Authentic Materials and Cultural Vocabulary for Chinese Language Teaching

研究代表者

中西 千香（NAKANISHI, CHIKA）

立命館大学・法学部・教授

研究者番号：50548592

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：科研の期間がコロナ禍に重なって、研究条件においてはかなりの支障があった。しかし、その条件の中でも、行えることは行い、成功したと言える。我々の研究分析は、論文や発表、研究講演などで成果報告ができた。これまでの、中国語の語彙や文化語彙について研究してきた。しかし、今後の研究につながる課題もたくさん見えてきた。さらなる研究が必要と思われるので、個人的にも引き続き研究を行っていききたいと思う。今回の研究課題の目標については達成できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は所謂言語景観側面もある。しかし、これら进行分析する理由は、最終的には中国語教育に還元していくためである。また、踏み込めていない分野であることから、学術的にも大いに意義がある。また、我々チームが行ってきた研究を授業のアクティビティに実践できることが、何よりも社会的意義だと思っている。より多くの中国語教育従事者、中国語学習者へこの研究を通しての中国語教育、中国語学習の示唆を与えていけることで、単なる研究で終わらないと感じている。中国語の教科書は話し言葉が中心である。教科書をわかって、本当の中国語の世界に近づくにはさらなるアプローチが必要である。その助けとなることが我々の使命である。

研究成果の概要（英文）：During the research period, we were also hit by COVID-19, but even within that situation, I believe we managed to accomplish what needed to be done and achieved some level of success. Our research results were presented through papers and presentations at research conferences.

So far, I have been researching Chinese lexicon and cultural vocabulary. However, I have also identified numerous challenges that will lead to future research. Moving forward, I intend to continue studying the issues I have identified personally. I believe we have largely achieved the goals set for this research topic.

研究分野：中国語学、中国語教育

キーワード：中国語教育 口語 書面語 レアリア（真実語料） 文化語彙 翻訳 言語景観

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

これまでの科研課題を基礎にさらなるレアリア分析を行う。

研究の概要は次の二つに分類できる。各種レアリアについて、さらに追及する。現代中国語における文化語彙について収集、整理および分析をする。また、レアリアの根底にある書面語表現については、全体的にみていく。漫画については、翻訳技術的な面も含めてみていく。

については、これまでの研究成果をふまえて、さらに深い分析、異なる視点からアプローチを行っていく。の中国語の文化語彙については、それぞれの文化語彙の背景をみたり、これらの語彙の使い方、出現頻度など、その語彙の周辺の情報を調査、分析をする。

これらの作業により、中国語教育従事者、中国語学習者に有益な成果を提供すべく、中国語教育における新たなレアリアや文化語彙の展望を示したい

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、中国語のレアリアの特徴をさらに明らかにし、中国語教育の中に取り込む場合の問題、その問題解決のための検討をすること、中国語の文化語彙についての整理、分析を通して、どう中国語教育に援用できるかを検討することである。

については、これまでも見てきたレアリアの特徴を再度見直したり、新たなレアリアを取り扱ったり、これまでと違う角度から各々の分野のレアリア分析を行うことで、新たな視点を探る。

については、現行テキストや検定試験の中国語語彙などから、必要な文化語彙、実際は必要な文化語彙であっても拾いきれていないもの、語彙の分類、語彙の解釈の違いなど、文化語彙を整理、分析する上で必要なデータ作成、データ分析を行っていきたい。文化語彙というものはその言語を使う母語話者にとって、当たり前のものであるが、学習者にとっては簡単には理解しきれないものである。日中同形語であってもその語の表す意味が違ったりするものもある。文化語彙と一言に言っても簡単に処理できるものではない。そこでこういったものが教育活動で援用できるかも含めて、検討することも目的である。

これらを行うことで、中国語教育、中国語学習をより効率的なものとし、中国語教育従事者、さらには日本国内外の中国語学習者に利益をもたらすと考える。

### 3. 研究の方法

本研究は、以下のことをメンバーで手分けして、進めていく。具体的には、中国語レアリアに共通する特徴、各種レアリア独自の特徴(文法的、語彙的)、レアリアにみられる書面的表現、口語的表現、レアリアの地域性による同異(繁体字エリア、簡体字エリア)、表現方法、言い回しについての日本語との相互比較(語彙的、表現ストラテジー、文法)、文化語彙について整理および分析(テキストレベルから一般的な生活のレベル)に分けられる。

この中でも、中西千香(代表者、立命館大学教授)全体統括、主に、明木茂夫(分担者、中京大学教授)、塩山正純(分担者、愛知大学教授)、石崎博志(分担者、関西大学教授)、干野真一(分担者、新潟大学准教授)と主な役割を当てている。また、必要に応じて、代表者を中心に推し進めていく。

具体的な作業としては、データの収集、データの整理、分析となっていくが、まずはメンバーで集まり、作業の進捗状況を点検したり、互いに作業をするために打ち合わせを必要とする。それぞれの作業する中での疑問は、互いに出し合い、問題解決にもっていく。

これらデータ収集、整理、分析を行った結果については、学会発表、論文などの手段でもって、出していきながら、さらなるこの分野のブラッシュアップをはかっていく

### 4. 研究成果

上にあげた具体的な作業に対して、どのような成果を得たかについて、一つずつ説明していく。

は、それぞれが取り扱うレアリアによって、学べる文法事項、語彙がそれぞれあることを確認し、学びと直接結びつけやすいものもあれば、今のテキストからは程遠いものがある。教材の作り方によっては、多様なアクティビティは作れる。

については、書面語の出現率の高さ、レアリアがどのようなものであっても、レアリアを読む対象の年齢の大小にかかわらず、書面語はでてくることがわかった。

については、地域差はそれなりにあるが書面語となった場合は同じようになる。

については、語彙、表現ストラテジーは日本語と同じように、婉曲表現は見られた。

の文化語彙については、先行研究をもとに分析しようと試みたが、先行研究自体の中身が分析が足りないことがわかり、文化語彙の定義、文化語彙の扱い、学び方も含めて、日本語母語話者用に考えていけないのではないかという結論を得た。今後も引き続き行っていく。

これら、レアリアの有効性を実証できたことで、中国語教育に採用可能な教材の幅も広がった。また、話し言葉のある程度学んだ者が書面語を学ぶための入門として、適切な内容と十分な質を伴った課題を設定できることも見えてきた。書面語のレアリアは、古漢語を知るといふより、規則的な形で出てくるので、話し言葉とは別に教えることもできるという確証を得た。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 72
2. 論文標題 若年層の作文にみる中国語の文語	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 關西大學文學論集	6. 最初と最後の頁 67-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 12
2. 論文標題 食品表示における文語表現 レアリアによる中国語教育の一環として (7)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日中語彙研究	6. 最初と最後の頁 279-302
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 21
2. 論文標題 Let It Go とJ-POPの翻訳をめぐって レアリアによる中国語教育の一環として (5)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『佛教大学中国言語文化研究』	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 15
2. 論文標題 ポライトネス・ストラテジーとしての書面語表現-レアリアによる中国語教育の一環として(6)-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『東アジア文化交渉研究』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 43
2. 論文標題 『北京官話全編』の談話分析 「辞去」の場面を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『関西大学中国文学会紀要』	6. 最初と最後の頁 119-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西千香	4. 巻 10
2. 論文標題 ゴミの名前-「ゴミ」になるときつく成分-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日中語彙研究	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 明木茂夫	4. 巻 10
2. 論文標題 「琵琶」が「ピーパー」とはこれいかに?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日中語彙研究	6. 最初と最後の頁 29-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 10
2. 論文標題 疫病対策の比喻と表現-レアリアによる中国語教育の一環として(4)-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日中語彙研究	6. 最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 干野真一	4. 巻 10
2. 論文標題 中国の公共広告に見られる言語表現について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日中語彙研究	6. 最初と最後の頁 79-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塩山正純	4. 巻 10
2. 論文標題 "光盤行動" を表現する中国語 - 人民网 2013-2020年ニュース記事で象徴的に使用される語句 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日中語彙研究	6. 最初と最後の頁 101-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 105
2. 論文標題 現代中国語におけるくぎり符号 " 標点符号 " について レアリアによる中国語教育の一環として(3)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佛教大学文学部論集	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石崎博志	4. 巻 -
2. 論文標題 琉球語における漢語語彙の導入	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 内田慶市教授退職記念論文集 文化交渉と言語接触	6. 最初と最後の頁 91-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 塩山正純
2. 発表標題 ニュース記事レアリアを使う学習 “光盤行動” を例に
3. 学会等名 中国語教育学会2022年度第3回研究会 ワークショップ「レアリアで授業を作るために～中国語教育の場合」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 石崎博志
2. 発表標題 食品表示にまつわるレアリアー標準規格とパッケージ
3. 学会等名 中国語教育学会2022年度第3回研究会 ワークショップ「レアリアで授業を作るために～中国語教育の場合」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中西千香
2. 発表標題 レアリアを使って、どう教材を作るか
3. 学会等名 中国語教育学会2022年度第3回研究会 ワークショップ「レアリアで授業を作るために～中国語教育の場合」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 明木茂夫
2. 発表標題 日本漫画の中国語翻訳のレアリアとしての利用価値
3. 学会等名 中国語教育学会2022年度第3回研究会 ワークショップ「レアリアで授業を作るために～中国語教育の場合」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中西千香
2. 発表標題 レアリアを語学教育に取り入れる 中国語教育を例に
3. 学会等名 言語教育エキスポ2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 干野真一
2. 発表標題 現代中国語文化語彙についての一考察
3. 学会等名 日本中国語学会北陸支部例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 塩山正純
2. 発表標題 《造洋飯書》の中文怎樣表現西餐的烹ren法？（renは食へんに壬）
3. 学会等名 “近代以来的西餐、洋飯書与大餐館”工作坊（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 干野真一
2. 発表標題 中国語の映像広告に見られる注釈表現について
3. 学会等名 日本中国語学会第71回全国大会（二松学舎大学オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中西千香
2. 発表標題 中国語講読授業にレアリアを取り入れる
3. 学会等名 中国語教育学会2021年度第2回研究会（オンライン開催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石崎博志
2. 発表標題 琉球語における漢語語彙の導入
3. 学会等名 内田慶市教授退職記念シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 明木茂夫
2. 発表標題 京劇はなぜジンジュになったのか 学校音楽教科書における中国音楽用語のカタカナ表記について
3. 学会等名 日本音楽学会第71回全国大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 明木茂夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 自費出版	5. 総ページ数 32
3. 書名 オタク的翻訳論 日本漫画の外国語訳に見る翻訳の面白さ 巻19	

1. 著者名 明木茂夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 自費出版	5. 総ページ数 24
3. 書名 オタク的翻訳論 日本漫画の外国語訳に見る翻訳の面白さ 巻20	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	干野 真一 (HOSHINO SHINYICHI) (00515463)	新潟大学・人文社会科学系・准教授  (13101)	
研究分担者	明木 茂夫 (AKEGI SHIGEO) (10243867)	中京大学・国際学部・教授  (33908)	
研究分担者	塩山 正純 (SHIOYAMA MASAZUMI) (10329592)	愛知大学・国際コミュニケーション学部・教授  (33901)	
研究分担者	石崎 博志 (ISHIZAKI HIROSHI) (30301394)	関西大学・文学部・教授  (34416)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------